

# 侘び寂び男子

～紅葉～

H24.9.7



横山昇平

秋海棠

# 侘び寂び男子 ～紅葉～

## 異文化から見た茶道

この夏、オーストラリアに留学し、茶道をはじめとする日本文化を客観的に見る事ができる機会がありました。ここでは、その経験をもとに茶道とより深く向き合いたいと思います。

オーストラリアの人から見た現代の日本のイメージは、モダンとカルチャーの融合した国で、とてもユニークであるとのこと。オーストラリアの道を行く車の、三台のうち一台は確実に日本車ということからもうかがえるように、テクノロジーは先端を行っていて、それにも関わらず、そこには茶道をはじめ歌舞伎や生け花といった伝統的な文化はしっかりと残っている、そういったことに強く感心するようです。

今回は実際に目の前で、伝統的な文化の一つに違いない茶道のお点前をしたのちアンケートを実施、その結果を参考に、茶道に直接関係する話題を取り上げたいと思います。

Q：茶道は知っていましたか？

この質問には予想よりもずっと多く

の人がイエスと答えました。特にホームステイ先のファミリーはつい先日、日本に旅行をして来たために、姫路で抹茶は体験したとのこと。ただしその時は、奥で出来上がったものを運ばれてきたために、お点前を見るのは初めてでした。そのため一挙手一投足に至るまで興味深々の様子でした。

Q：お茶は苦くなかったですか？

この質問の答えにも少し驚かされました。多くの人が大して苦くないと答えました。日本人でさえお抹茶を苦いと感じる人もいるのだから、海外の人ならきつと苦く感じるだろうと言う先入観のためです。

実際に尋ねてみると、理由はすぐにわかりました。それは『紅茶』の存在です。日ごろから紅茶をストレートで飲むことが多いと言うホストマザー曰く、苦みどころか上品な美味しさを感じたそうです。

Q：茶道のイメージを教えてください

この問いはファミリーに向けたものですが、真っ先に出てきたのが（良い意味で）厳格な、や伝統的な、文化

的な、という言葉でした。「昔から守られ、洗練される歴史の積み重ねによって生まれた茶道は、伝統であり文化である。それに触れるときに私たちは中途半端な態度でいてはいけません。そういう意味で厳格だ。」（一部意識）というファミリーの言葉通り、二度のお点前（一度目はファミリー宅で、二度目はお別れパーティー）の機会でどちらとも静かで、微かな緊張感とどこか落ち着く日本でのお点前と大差ない時間が流れるのを感じました。驚いたのが二度目のお別れ会の時、小さな子供連れのファミリーが多かった中でその時間が生まれたことです。チャットと見たときの小さな子供の目は「何やってるの？」という疑問で埋め尽くされています。

ましたが、

そこには好奇心の割合が高く買ったように思います。

互いの文化の尊重。

## 1-オーストラリアにてお点前をする筆者



それがこの飛行機に、あるいは船に乗ってしまえばこの島国からあつという間に外国に行けてしまう世界において、各人が持つべき意識ではないでしょうか。しかし、ユニークと言われる日本の文化を日本人が知り、発信することが現状では果たせていない様に感じられたのもまた事実です。知りもしないことを尊重しろ、などと言うのはエゴが過ぎます。そのユニークな文化を発信のするは他でもない、我々です。まずは茶道から初めて日本を知るのはいかがでしょうか。日本も知らずに世界はしれませんよ。

(末野晃太郎)

### お家元見学

去る7月29日に、表千家のお家元である不審庵へ見学に行きました。私にとつては、今回が初参加でした。

まず、お家元に着くと運動靴から草履に履き替えました。確かに、茶道のお家元に白い運動靴は似合いません。

ただ、足袋ではなく靴下のまま草履を履いたので少し歩き辛かったです…。そしてお弟子さんに付いていくと、コケがきれいに生えそろう庭園が広がっており、しばらく歩くと小さな建物が見えてきます。不審庵です。

不審庵といえば、一般的に表千家のお家元全体を指すのですが、実際はお家元の中にある茶室のひとつなのです。ちなみに、他は火災で燃えてしまったためお家元の中で最も古い建物だそうです。

不審庵に入るには、まず、「にじり口」と呼ばれる入り口から入ります。背が大きいと、頭をぶつけそうなくらい小さな入り口でした。また、茶室自体も非常に小さかったです。私たちが普段使っているお稽古場のほぼ半分ほどの広さでした。

中には、千利休の像が祀られています。「もしお家元に何か起こったら、真つ先に利休様の像を持って逃げなさい」とそう言われているほど、大事なものだそうです。

この他にも様々な茶室を拝見しまし

た。昔の手紙を土壁に貼った「反古張りの席」。聚楽第の一部といわれる「残月亭」。七事式と呼ばれる稽古を行った「七畳敷」。傍には先生方が見学するための「鞆の間」があります。他にも、もとは廊下であった茶室、「無一物」。そして八畳・十畳・十畳の三間が続く「新席」。

茶室の拝見が終わった後は、いよいよ、新席にてお茶と葛を使ったお菓子をおいいただきました。今年の文化祭のお菓子も葛を使っています。お茶は、混ぜ残しが無いのはもちろん、濃すぎず、薄すぎず、大変おいしく頂けました。お家元独特の空気も、お茶をおいしくさせたのかもしれない。

お弟子さんの中に清風の卒業生だという方がいらして、その人ともお話をする機会がありました。学校の話などで盛り上がり、楽しかったです。そして、そのお弟子さんにお礼を言っただけで私たちがお家元を後にしました…。

〈オマケ〉

表千家のお家元を出た後、裏千家の

お家元も玄関先までではありませんが見に行きました。

遠いと思ったら、徒歩で1分もかからないほど近くにありました。まあ、通りに向かって表にあるか裏にあるかの違いですからね…。(相川真人)

### 床の間のしつらえ

今日ではすっかり見かけなくなった床の間ですが、かつて一般の家庭でも大事であったように、茶道でも床の間というものは非常に重要であります。

お茶の席では、お客様をおもてなしするために様々の工夫をこらしますが、床の間には掛け軸やお花などのしつらえがなされます。とくに、その季節に合ったものを飾ることは肝要です。

ここでは、夏や秋のお稽古で登場したお軸やお花を少し、紹介したいと思います。

### ミズヒキ

ミズヒキのお花は、その名の通り紅白の水引のように見えることから名が

付きま

した。

細く長

い茎に、

等間隔

に並ぶ

ように

して小

さなお

花がつ

いています。これを上から覗くと赤に、下から眺めると白に見えるのです。背が高く、茎もしゃんとして丈夫なお花です。

### ムクゲ



ムクゲはアオイの仲間、白、赤、紫などの色とりどりの花を咲かせます。このムクゲのうち、白の花弁に紅



の丸がついた品種は「日の丸」「宗旦」などと呼ばれ、千利休の孫・千宗旦が好んだことでも知られています。ムクゲの花弁は近くで見ると薄い絹のようでもあり、趣き深い一輪挿しなどがよく用いられます。

### シュウカイドウ

漢字では、秋海棠と書きます。中

国での呼び名を、そのまま音読みにしたものです。芋の

葉のような広い緑葉に、茶色のやわ

らかな茎を伸ばし、薄紅色のかわいらしい花をぶら下げます。我が茶道部ではすっかりおなじみの、秋の代名詞のようなお花です。昨年2011年の文化祭でも飾られました。



次に、お軸の話に移ります。

掛軸には、いろいろな種類があります。そして、そこには様々な言葉が書かれています。

その中で、茶道でも有名な言葉の一つ、「和敬清寂」という言葉を解説します。

これは、四字熟語であり、それぞれの漢字に意味があります。

「和(わ)」仲良くする、と言う意味や落ち着くなどの意味もあります。お茶の席では、怒らずに楽しくという意味で、この言葉が入っています。

「敬(けい)」尊敬の敬です。相手を敬うと言う意味があります。どんなに仲が良くても、ちゃんと礼儀を守らないといけませんね。親しき仲にも礼儀ありです。

「清(せい)」清めるという字です。神聖な場所である「茶室」に入るときに、手を洗います。その表面的なものだけでなく、心の清らかさも大切なのでこの文字が入っています。

「寂(じゃく)」冊子のタイトルになっている「侘び寂び(わびさび)男子」にも、この文字が入っています。決して

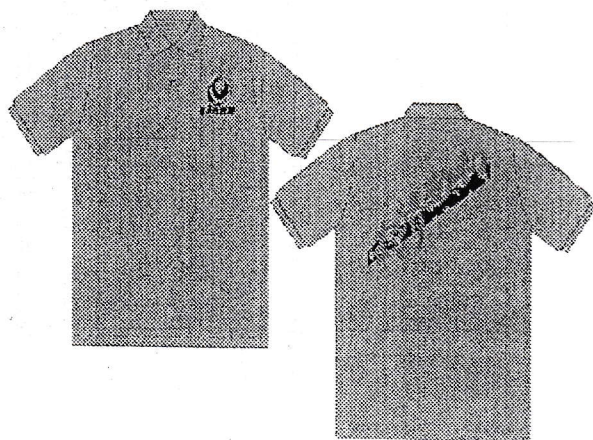
「ひとりぼっちで寂しい」という訳ではありません。ここでの意味は「静か」という意味です。静かという事が、日本では美しいとされてきています。

これらの事柄が茶道では、すごく重要です。みなさんも「和敬清寂」を身につけてみませんか？ (横山昇平・橋本剛幸)

#### Tシャツ作成記

2012年初夏、新入部員の顔も少しずつそろい始めていた時期に、部内で小さなプロジェクトが動き始めました。Tシャツを作ろう。こんな簡単な一言から始まったこのプロジェクトには、筆舌に尽くしがたい困難が待っていました。

同年数週間後、実際にシャツを作るためにデザインと配色の相談が始まりました。この時に大活躍したのが、高校二年生の横山君です。この時のデザインを元に現在部員の着用しているものが作られました。この時のデザインがいわば目標となったのです。



そして運命の見積もり。その額、実に一枚約5000円。あり得ません。そのため後日にまた会社を変え良心的な価格にまで値下げをし、現在部員の着用しているグリーンのオリジナルTシャツが生まれました。

デザインは、右図右側の背中側には記事『床の間のしつらえ』にも登場する和敬清寂の字が紅葉の浮かぶ川の上を流れています。

左側の胸元のワンポイントは、柄杓

を模した下線に導かれた清風茶道部の文字の上に、キキョウ柄のお茶碗にお湯を入れており、このお湯の柄の躍動感ほ侘び寂び男子たちの元気を表しています。

去年までは着物と制服姿しかなかった茶道部の文化祭も、今年はこのＴシャツのおかげでよりいっそう一体感が高まり、これまでにない侘び寂び男子たちの姿をお見せできる事でしょう。  
(末野晃太郎)

### 今年度の茶道部

平成24年9月現在の部員状況を報告します。

#### 高校三年生

中西啓祐(部長)・河合良祐・沖垣貴大・小谷岳志・中村志聞

#### 高校二年生

末野晃太郎・横山昇平・木下良平・西口大生

#### 高校一年生

相川真人・井上大志・川中一康・鈴江

晴碧・坪内浩平・堂前圭吾・濱口裕之・村野泰斗・森恵士・北田航輝・中野雄一朗

#### 顧問

学園長平岡英信先生(名誉顧問)・教頭

堀川義博先生・馬場舞子先生

#### 教授

表千家教授小西利子先生

#### 中学三年生

橋本 剛幸

#### 終わりに

当誌が生まれた理由、それはもちろん、多くの方に茶道や清風茶道部の侘び寂び男子たちの存在・活躍を知っていただきたいという思いでしたが、真剣に原稿と向き合っている時間を追うごとに、自分たちの成長や課題が浮き彫りになっていくのを感じました。例えば家元見学について、私は去年の同じ時期に見学に行きました。そこでは記事を書いた部員と同じ所を巡ったはずなのですが、私の心に残っている印象と、彼の書いた記事から受ける印象とは大きく違います。去年の私と今

年の彼、両者ともに高校一年であった彼らの違いは茶道歴ではないかと思えます。私と彼は同じ年に創部されたてのこのクラブに入部しました。つまり、同じ高一でも一年間私よりも彼の方が長く茶道と触れ合っていることになります。その違いがこの印象を生み出したのだろうと思えてなりません。

今後とも、私達侘び寂び男子は日々ユニークな文化である茶道を通じてあらゆることに挑戦していきます。もし、この誌を取ってくださいの方の中から一人とでも、その挑戦を共有できるような機会があるとすれば、それはとても素敵になるでしょう。新入部員は随時募集中です。

最後になりますが、当誌をお手に取っていただき、そして最後までお付き合いいただき誠にありがとうございます。

製作：末野 横山

相川 橋本